

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名	水道事業経営基盤強化推進事業		担当部署	企業局 水道企画課	
総合計画体系			根拠法令 計画など		
基本政策(大項目)	3	しっかり安心・快適住み良いまちづくり	事業期間	開始	平成 <input type="text" value=""/> 年度
政策(中項目)	2	快適に暮らせるまち なんと			終期
(小項目)		上水道		未定 <input type="text" value=""/>	
施策	3	安全で安心な水の安定的な供給			
基本事業	5	経営基盤の強化			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 内部管理 水道事業全般														
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	中長期的な経営の基本計画である経営戦略に基づき、経営基盤強化への取り組みを進め、健全な経営状態を保つ。														
事業計画	28年度に何を計画していたか	経営戦略に掲げた各種取り組みの推進として、隔月検針の導入、資材管理の業務委託等を行う。														
成果目標	事業目標の達成度合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>31年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>累積欠損金</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>円</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	累積欠損金	0	0	0	0	0	円
指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位										
累積欠損金	0	0	0	0	0	円										

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	経営戦略に掲げた各種取り組みとして、隔月検針の導入、浄水場の共同整備による広域化の検討、資材管理業務の外部委託の導入などに取り組んだ。また、水道事業ビジョンや経営戦略の内容について、広報なんと、テレビ広報、市公式ウェブサイト等により周知啓発を図るとともに、職員研修も実施した。					
事業実施手法	<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1						
	2						
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	累積欠損金	0	0	-	-	-	円
	目標達成率(実績/目標)			-	-	-	%
今年度の進捗状況	計画どおり	事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	0	0	0	0	0
		補正予算額	0	0	0	0	0	0
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	0	0	0	0	0
		決算額	0	0	0	0	0	0
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.2	0.0	1,427		1,427		

【鳴門市行政評価】

【事務事業名:水道事業経営基盤強化推進事業】

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	0	0	350	未定	未定
	うち一般財源	0	0	350		
	人件費	3,430	1,427	3,567		
	総事業費	3,430	1,427	3,917		

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	有効性を高めるため、水道事業ビジョンや経営戦略の内容について、テレビ広報等で周知啓発を行った。
	効率性	A:効率的だった	効率的な経営を進めるため、経営戦略に掲げる各種施策の取り組みを推進した。
②成果に対する評価	指標名	累積欠損金	
	目標	0	円
	実績	0	円
	評価	A:目標を達成できた	
③総合的な評価		A	今後も経営状況が厳しくなることが見込まれ、更なる経営基盤の強化推進が必要である。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	料金収入は減少を続けており、経営状況は依然として厳しく、将来的には現行の料金水準では安定的な経営状況を保つことはできないと思われる。今後は、更なる経費削減策に取り組むとともに、速やかに水道料金のあり方について検討する必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	4
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	経営戦略に掲げた各種取り組みの推進として、受託工事の廃止等を実施する。また、鳴門市水道事業審議会において水道料金のあり方について検討を行う。			
	H30年度	経営戦略に掲げた各種取り組みを着実に推進するとともに、水道事業審議会の答申を受けて、水道料金のあり方について検討を進める。			